島野孝一

富士の誘惑

富士を取り巻く自然の中に
地球の息づかいが聞こえるとき

渡辺英基

うつろひⅡ

二十四節気の富士

それぞれの富士 写真展

入場料
無 料

2022 7.30［土］～ 8.28［日］

9:30～17:00（ただし入館は16:30まで）
休館日：毎週月曜日・8月12日［金］

近藤浩一路記念南部町立美術館
アルカディア文化館2階　Koichiro-Kondo Memorial Nanbu town Museum of Art

［主 催］南部町教育委員会、近藤浩一路記念南部町立美術館
［後 援］山梨日々新聞・山梨放送・テレビ山梨・岳南朝日新社
富士ニュース社・富士山新報・エフエム富士（順不同）

それぞれの富士 写真展

2022 7.30［土］～ 8.28［日］

入場料
無 料

島野孝一　KOICHI SHIMANO

今から33年前仕事の関係で、富士山のお膝元、富士宮市に転居して以来、その姿を追うことが私の人生の一部になった。毎日天気図を見ては一喜一憂する。四季折々に見せる豊かな表情をイメージして愛車を駆る。同じく富士に魅了された写真家の多くはそれを「ふじの病」と言ってはばからない。なぜこの山は、これほど人の心を惹きつけてやまないのか…

ときに雄大で、ときに神々しく、片時も目を離させない変幻自在なとき、奇跡を待つ緊張感、その姿の見えない一時の安堵と失望感、そして予期せぬ出会い…　私にとって、その全てが富士の誘惑なのである。

日本の心の象徴とも言える富士、この写真展でその魅力を少しでもお伝えできたら嬉しい。最後にこの機会を与えてくださった、南部町教育委員会・後援各社・南部町美術館様に心より御礼申し上げたい。

Facebook

Instagram

【プロフィール】

1951年 埼玉県秩父郡横瀬町生まれ / 1973年 東京農業大学短期大学卒業 / 1975年 東京農業大学に奉職 / 1989～2005年 東京農業大学富士農場に勤務のかたわら富士山の撮影に傾注 / 2012年 東京農業大学勇退（最終勤務地：東京農業大学「食と農」の博物館） フリーランスのカメラマンとして再出発、富士山をライフワークとしつつも、全国にある「富士と名のつく日本100名山」の撮影に着手（現在休止中）

◎写真コンテスト入賞歴（抜粋）
1990～99年 NHK静岡放送局「富士山」写真コンクール入選等9回 / 1995年 フジフィルムフォトコンテスト カラースライドの部グランプリ / 2021年 東京カメラ部「日本写真100景<四季>2021」静岡県選出 / 2021年 全日写連 第38回「日本の自然」写真コンテスト入選 / 2021年 河口湖美術館・富士山写真大賞22nd入選

◎著 書
・共著：2003年 西富士100の素顔（東京農大出版会）　・著作：2006年 写真集「富士山風雲録」（パイカットアイ）

◎雑誌掲載
2008年1～12月 富士の誘惑 経営者会報巻頭2頁（日本実業出版社） / 2010年8月号 富士山特集 pen（阪急コミュニケーションズ）他

◎新聞連載
2019.1～隔月連載・現在継続中①富士と名のつく日本100名山Vol.1～16（岳南朝日新聞） / 2021.1～隔月連載・現在継続中②富士山風雲録Vol.1～（岳南朝日新聞）

◎常設富士山写真ギャラリー
ギャラリーマルショウ主宰　富士宮市上井出657-1　℡0544-54-0123（コロナ閉館中）

渡辺英基　HIDEKI WATANABE （EIKI.W）

このたび、富士山写真展『うつろひ』にご来場いただきまして誠にありがとうございます。

私が初めて富士山を意識したのは、小学生の低学年の頃です。

身延線に乗り富士宮市へ向かう途中、山間部を通り過ぎ、沼久保駅を過ぎたあたりから、右の車窓に突然富士山が見えてきます。すると電車は大きく右にカーブし、富士山は左の車窓へと移ります。人影もまばらな、先頭車両で私はいつも、どんどん大きくなる富士山を追いかけていました。それから十数年後、私は富士宮市内へ就職しました。毎日富士山を眺めているうちに自然とカメラを向けるようになりました。そして今、初めて富士山にカメラを向けてから、30数年の時が過ぎようとしております。

風景は、一期一会。二度と同じ表情を見る事はありません。そんな緊張感が好きで富士山を撮り続けて来ました。

まだまだ、未熟な作品ばかりではございますが、どうか最後までご覧いただければ幸と存じます。

最後に本展の開催にあたり南部町教育委員会並びに南部町立美術館の皆様に心から感謝の意を表します。

Facebook

【プロフィール】

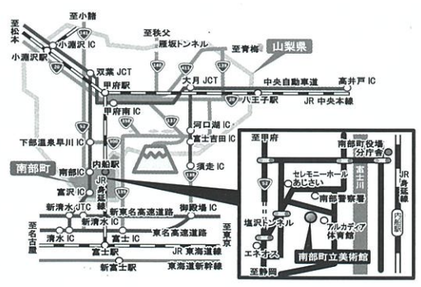
1960年、山梨県南部町生まれ　在住
30年以上富士山を撮り続けているネイチャーフォトグラファー。中学1年生の時、初めて一眼レフを購入したのをきっかけに写真撮影を始める。
まず、ネイチャーフォトの世界に興味を持つ。1987年、秋山庄太郎氏の主宰する『花の会』に所属し、中判カメラの購入をしたのを機に富士山の撮影を始める。
1989年、写真家青柳茂氏に師事し商品撮影を学びながら、本格的に富士山撮影に打ち込む。以来、ライフワークとしている。

近藤浩一路記念南部町立美術館

〒409-2213
山梨県南巨摩郡南部町大和360番地
TEL：0556-62-9292　FAX：0556-62-9293
https://www.town.nanbu.yamanashi.jp

近藤浩一路 常設展（水墨画）
入場料：一般300円、小中学生200円

［アクセス］

■電　車
JR 身延線「内船駅」下車
・タクシーで約3分
（片道約1,000円）
・徒歩20分（約2km）

■自動車
・中部横断自動車道 南部ICから約5分 国道52号線を静岡方面に向かい、トンネル2つを過ぎ当館看板を左折